

カーボンレポート

東京都低炭素ビル実績表示

この書面は、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例に基づく「地球温暖化対策報告書」(都内の中小規模事業所を対象)により東京都に報告したCO₂排出量の実績等を、地球温暖化対策指針に基づいて表示するものです。

報告書提出
事業者名 三菱UFJ信託銀行株式会社

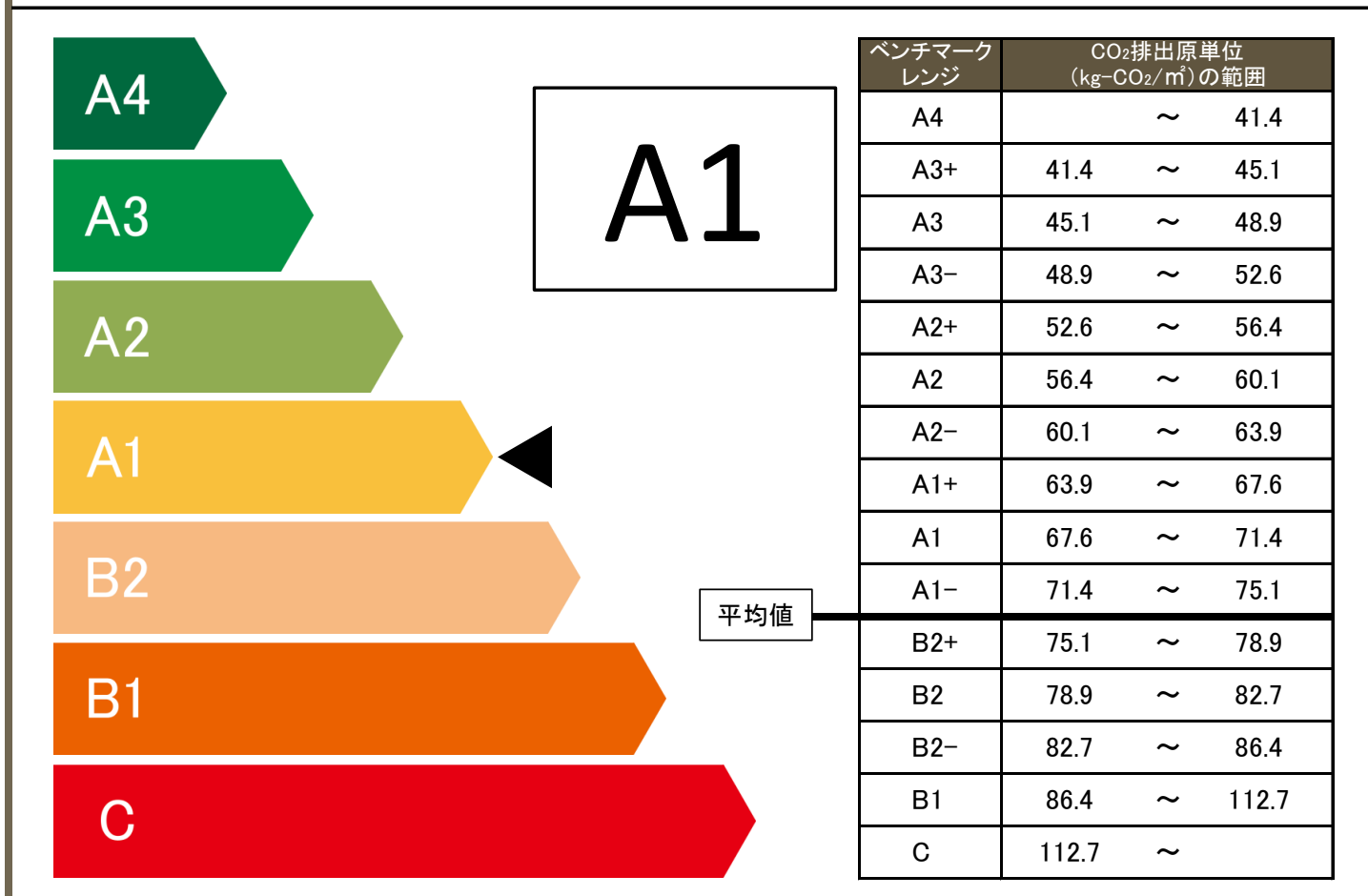
事業所名 USCBビル

住所 江東区東陽四丁目11番地38号



実績年度	年間CO ₂ 排出量	延床面積	CO ₂ 排出原単位 (延床面積当たりの年間CO ₂ 排出量)	主たる用途
2017年	1287 t	18506.16 m ²	69.5 kg-CO ₂ /m ²	事務所

ベンチマーク区分:テナントビル(オフィス系、準大規模)



◆ 地球温暖化対策の実施状況

	重点対策	その他対策
	対策名	対策名
組織体制の整備	テナントにエネルギー使用量提供	テナントへの温暖化対策協力依頼
		使用量に応じた料金体系の採用
エネルギー等の使用状況の把握	自ら入手可能な情報に基づく把握	過去のデータによる傾向の把握
	エネルギー使用量の前年度比較	
運用対策	空室・不在時等のこまめな消灯	昼休み時の消灯の実施
	冷暖房温度を都の推奨値へ変更	事務用機器を業務終了時に停止
	空室・不在時等の空調停止	中央熱源機器等の季節設定実施
	事務用機器を省エネモードに設定	
設備保守対策	中央熱源機器等の定期点検の実施	換気フィルターの清掃・点検
	空調フィルターの清掃・点検	
設備導入対策		BEMSの導入
		太陽光発電設備の導入
		照明用人体感センサの採用
		全熱交換器の導入

上記は、本事業所が実績年度に実施した対策です。

◆ 補足説明(自由記入)

[建物]: 1990年(平成2年)に本館が竣工。2007年に増築棟が完成
 設備の使用エネルギーはすべて電力で、ガスの使用は無い。水については、トイレ洗浄用として中水が使用されている。
 [電気設備]: 屋上にキュービクル受変電設備が設置されている。
 [空調設備]: 2007年の増築棟竣工に伴い、空調は本館・増築棟とも高効率エアコン(ビルマルチ)となり、外気導入は屋上の外調機により一括で行われている。
 [照明設備]: 2007年の増築棟竣工に伴い、照明は増築棟のみHf蛍光灯が導入された。本館の照明はFLR蛍光灯のままとなっている。

◆ 注記

ビルのCO₂排出原単位(延床面積当りの年間CO₂排出量)は、ビルの断熱性能、設備・機器のエネルギー効率及び運用・保守管理状況を、総合的に示すビルの省エネルギー指標です。東京都が提供するベンチマークは、中小ビルのCO₂排出原単位の平均値を用途別・規模別に示しており、その平均値から個々のビルのCO₂排出原単位がどの程度離れているかをみることで、当該ビルの低炭素レベル(省エネ性能)を評価することができます。

なお、ビルのCO₂排出原単位は、空室率、駐車場や電算室の有無、稼働時間、入居テナントの種類や入居テナントのエネルギーの使い方等によっても影響を受けます。ベンチマークは、こうした様々な要因も含まれた平均値を示していますが、省エネの取組以外の要因が著しく大きい等の場合、評価者は、これらの要因がどの程度、CO₂排出原単位に影響を与えているかを考慮する必要があります。詳細は、『自己評価指標(ベンチマーク)解説書』(東京都環境局発行)をご参照ください。